

●司法書士制度の発展を目指して！●

飛翔 F A X 版

2010/07/30発行

No. 59

発行：日本司法書士政治連盟

〒160-0003 東京都新宿区本塩町9番地3

発行人：田嶋 規由 編集人：手塚 孝一郎

TEL03-3359-0498 FAX03-5366-5310

ホームページアドレス：<http://www.ns-seiren.net/>

メールアドレス：office@ns-seiren.net

第40回定時大会開催

平成22年4月17日（土）午前10時から東京・平河町の砂防会館において標記大会が開催された。

当日は、北東からの強い寒気の影響で東京都心部、関東各地で積雪・降雪が観測され厳しい冷え込みであったが、全国から単位政連会長・代議員が続々参集し会場を埋めた。

定刻、司会者太田悦子、藤井浩一両副幹事長により開会され、昨年一年間にお亡くなりになられた110名の会員のご冥福を祈り、黙祷をささげた。

三好副会長は開会の辞は以下のとおり。



皆様おはようございます。副会長の三好千江子でございます。

本日は、御来賓をはじめ全国から多くの会員のご参集により、記念すべき第40回定時大会が開催されることは誠に慶ばしい限りです。

日本司法書士政治連盟結成の歴史を振り返りますと、昭和39年の第1次行政改革における臨調会議において司法書士制度廃止論が唱えられたことにより危機感を持った司法書士界は、昭和42年7月の日本司法書士連合会の第20回定時大会に於いて、司法書士政治連盟全国組織の実現化が決議され、昭和44年7月に日本司法書士政治連盟が結成されました。

それから40年間、諸先輩の方々の強い信念と使命感、そして並々ならぬ努力によって、当政治連盟は継続されてきました。諸先輩の方々に深い感謝と敬意を表する次第であります。

さて、昨年の衆議院選挙によりまして、与野党逆転の政権交代が起きました。大変残念なことに、当政治連盟の顧問でいらっしゃいました議員連盟の先生方の多くの議席が失われてしまいましたが、政権交代や政治状況にかかわらず、記念すべき第40回大会にあたり、我々は「原点に回帰」し、国民のための司法制度、国民のための司法書士制度に御尽力いた

だいている超党派の国会議員との「信義」「信頼」を基本とし、真に国民の為の司法制度を実現するという「大義」をもって、人間でいえば40才は不惑の年といますが、まわりの状況に惑わず、信念をもって、我々政治連盟の使命を果たすべく本日ご参集の皆様の叡智を結集する必要があると思います。

ここに、第40回日本司法書士政治連盟定時大会の開会を宣言致します。

□ 田島会長 挨拶の要約



40年前の政治連盟創生期から、政連の旗を立て守り引き継ぎ今日の運動がある。私自身、幹事長・会長としての10年間、前半は司法制度改革の風を受けて簡裁代理権等の法改正に携わり、後半は規制改革の中から思わぬ逆風が吹き、司法書士制度の生命線である商業登記開放阻止・労働者派遣問題に立ち向かい、司法書士の中核業務である登記を堅持するために大きな成果をあげた。これは国民の視点に立った運動の展開と司法書士制度推進議員連盟の大きな力・支えがあって実現できた。制度の存続は政治連盟の活動に係っている。

□谷垣禎一議連副会長 自民党総裁挨拶の要約



中核である登記業務に加えて、消費者問題、労働者問題等諸問題に研鑽を積まれて司法書士の先生方の活躍の土俵が広がっている。国民に一番身近なところでニーズ応えている地道な活動が自由な社会を支える一番の基礎である。自由で安定した社会の構築のため、司法書士の法律活動を通じて権利擁護、社会の風通しを良くするため、国民に一番近い法律家としてさらに研鑽を積まれるよう願う。

□千葉景子法務大臣挨拶の要約



今日まで司法書士の職務の充実、制度の課題について微力ではあるが係わってきた。

所管の法務大臣として、加藤副大臣共々様々な課題に取り組み前進できるよう努力したい。

職務の充実、司法書士制度に係わる政策については党派を超えて努力され、政治の場に提示されている。市民のニーズに応え法的なノウハウ・キャリアを生かして安心できる社会、権利擁護がはかれる社会を築くため、更なる活躍が出来るようはかって参りたい。

ADRに於ける職域確保、成年後見制度推進の先導役としての役目、簡裁における中心的な活躍、まだまだ期待されていること大であり職域の拡大・充実を図っていく中で、業務を萎縮させてしまうような事態はあってはならず、懲戒の問題は公平・適正におこなわなければならない。所管を預かる者として実情を把握しチェックをしなければならない。



国民の為、国民に身近な、何時でも何処でもリーガルサービスが受けられる国民の為に望ましい司法制度の観点から、与野党挙げての司法制度改革であった。

相談業務における140万問題は、相談の中でわかるケース、裁判に至らない相談等様々であり、超えたから相談を打ち切るということは、この際撤廃したほうがよい。

弁護士自治の中での懲戒からみると、自治権を持つことは大切である。実態を知らない法務局から懲戒をうける現状からまず第一義的な自治権を持つことが必要である。



弁護士自治と比較し、司法書士に対する懲戒のあり方、運用が適正におこなわれているのか、このままでいいのか、政務三役で検証しなければならない。現場の生の声を聞かせてもらいたい。これが国民のリーガルサービスへの向上に繋がるものとしなければならない。

政治家は国民の声をしっかり聞く、意見等は検証・研究・勉強をして適切に判断をしていく、政治主導を掲げる今の政権は、官主導では国民、専門家の声が届きにくい、これを改めようとするもの、多くの意見がこの半年間で国会・政務三役に届きやすくなった。

来賓紹介

日本司法書士会連合会 副会長 今川嘉典様

日本司法書士会連合会 常務理事 光木隆志様

東京司法書士会 会長 小村 勝様

(社) 成年後見センター・リーガルサポート

理事長 芳賀 裕様

全国公共嘱託登記司法書士協会協議会会長

会長 平野 政則様

涉外司法書士協会 副会長 大川 保夫様

全国司法書士女性会 会長代理 大竹 由美子様

東京青年司法書士協議会 会長 安藤 剛史様

長野県司法書士会 会長 古河 静男様

公明党本部 総合センター 選挙・団体局 団体涉外委員会

部長 山岸 順次様

みんなの党代表 渡辺喜美様秘書 堀越 富士夫様



司法書士制度は、これまで以上に大きな変革の時にある。

政連の日頃の献身的な活動に対し感謝申し上げます。政連は、連合会の政治部としての機能を果たすべく設立され、連合会・政連一体となって制度充実発展のため邁進してきた。連合会は政連との相互連携、協力関係を深めると共に、単位会・単位政連も連携を深められ一体となった活動を期待する。政連の精力的な活動を支援すると共に、連合会への今後一層の支援・協力を願い申し上げます。

□東京司法書士会 小村 勝会長挨拶の要約



日司連と日司政連は強力なタッグを組んで司法書士制度発展のため運動を展開されたい。

祝電紹介の後、記念講演として、みんなの党代表渡辺喜美衆議院議員の「維新開国」と題する講演がおこなわれた。



□塩崎恭久議連幹事長挨拶の要約



登記中心の業務から成年後見、簡裁代理と広がってきた。これはそれまでの実績の結果である。合意管轄、家事代理等寄せられた課題も残っている。相談の問題も同じである。それぞれの立場で考え方があるようだが、国民に一番身近なところで相談を受けている中でそれに縛りがかかっているようなことがあるとすればこれも課題である。成年後見から10年当初の財産管理から、生活保護、身寄りのない人にも光をあてなければならない。医療同意、死亡後の後見人の役割等運用ではなく、後見人を保護する法整備が必要である。

議員連盟の会長ポストは初代安井謙参議院議長、二代福田一衆議院議長と他に類をみない非常に重たいポストである。超党派の枠組みは今後とも守って参りたい。議連所属の亀井大臣も同意見であり、何より単位政連から上がってきて初めて議連に入れ仕組みであり、与党の議連所属議員と協議を重ねてまいりたい。

議長選出

議長選出に移り、司会者指名により岩手政連の野里壽史会員議長席につき、議長は副議長に滋賀政連蛭町幸指名し、構成員の確認・会議時間の確認をした。

構成員 211名 本日出席者 154名 会議時間 本日午後4時30分まで

議事

経過報告

第1号議案 平成21年度決算報告書承認の件

第2号議案 平成22年度運動方針・組織活動方針決定の件

第3号議案 平成22年度予算決定の件

第4号議案 大会宣言採択の件

この10年の経過報告が、芝幹事長から総括的になされた。(定時大会要領参照)

日本司法書士政治連盟 第40回 原点回帰—信義・信頼・大義



第1号議案につき、山中副幹事長から決算書にもとづき説明、次いで丸田監事監査報告。

第2号議案につき、伊藤、三好副会長、上本副幹事長、徳竹、安井副会長から提案説明がなされた。

運動方針・組織活動方針については、前年度を踏襲しているものの、「制約なき法律相談権の確立に向けた司法書士法改正の実現」のタイトルについては、誤解を与えている向きがあるとのことにより、平成13年11月27日開催の第60回連合会臨時総会承認の司法書士法一部改正要綱（日司連案）にある「前各号の事務について、法律相談に応じること」及び翌日開催の議連決議「職務全般に関する法律相談権の獲得」との構成型式により、本年度はタイトルを「司法書士業務全般に関する法律相談権の確立」と表現を改めた旨提案がなされた。

第3号議案につき、山中副幹事長から予算書に基づき提案説明がなされた。

第4号議案につき、山北副会長から宣言（案）の朗読をもって提案

各議案につき質疑応答の後承認

質疑応答の要旨(一部)

1. 簡裁代理権は時代の要請により緊急避難的に与えられたと言う会員もいるが、政連としては反論してはどうか？

この問題に限らず、たとえ政連活動が大きな力になったとしても、利害関係当事者等への配慮から詳細をつまびらかにできない部分もあり、成果が出た時ほど、自己PRは極力控えなければならない性格のものである。

ただ経過報告でもあるように、議連の先生方との信義・信頼に基づいての活動により成果が上がっていることをご理解願いたい。

(昭和37年に設置された臨時司法制度調査会の昭和39年の意見書が弁護士過疎・弁護士の大都市偏在化を初めて問題にしたが、法曹三者の厚い壁に阻まれその後30年以上、司法制度改革は容易ならざるものであり、アンタッチャブルなものとして捉えられていた。それが平成9年の国会質問を皮切りに、将に政治主導により改革が始まり、簡裁代理権が実現した。)

1. 単位会と単位政連の関係を分離する意見について見解を問う。

日司政連は、日司連定時総会において満場一致の決議があり産みだされた。

日司連総会決議があつて誕生した日司政連は、いわば日司連の子供であり、日司連と連携し司法書士制度に自己限定し、特化し活動している。強制会である日司連ではできない政治活動の部分を役割分担して担うための組織として生み出され存在しているのである。区別すべきは部分あるのは当然であるが、分離という意味が完全に切り離すということであれば、成り立ちから否定する話になり理解し難い。

1. 単位政連自体の会費納入率の低下傾向と日司政連への会員分会費納入制度が、単位政連の財政を圧迫している。

ほんとうにご苦労をおかけしている。

しかし、これ以上会費納入が減ると定時総会、全国会長会等の経費の負担も大きく、活動の縮減をせざるを得ない。今でも税理士、行政書士の政治連盟の何分の1かの予算で活動している。ぜひ何とか組織率向上、会費納入率向上の努力で対応をお願いしたい。

1. 新人が本会入会の際、政連活動を説明し、入会促進をはかるべきではないか。

既に新人に対して入会時に説明し理解していただき、そのほとんどの新人に入会をしていただいている単位政連もある。

田嶋会長は、静岡政連時代そうやって入会率を9割以上に向上させた実績がある。もちろん単位会の支援協力が前提であるので、それを踏まえ地元の実情に応じ、入会率向上に取り組んでもらいたい。

その他意見

1. 組織の続くかぎり組織強化は常なる課題。次なる10年に向けた組織強化、税理士や行政書士と比べて、たとえ人数、予算は少なくとも、信頼関係の強い全国組織があり機能していることが原点だ。
1. 日司政連と日司連の連携強化が不可欠であり、これは単位政連と単位会も同じである。表裏一体という意味は、役割分担と連携強化という意味であり、さらに関係を密にし邁進しなければならない。

田嶋会長は特に発言を求め

「政治連盟の組織強化は、議論よりも具体的に目に見える形で、司法書士制度にとって政連がいかに必要な組織であるか訴え続け理解を求める必要がある。政治連盟の強化なくして司法書士制度の明日はないとの気概である。我々は一般的な政治団体・資金団体とは全く異なり制度の関する課題・問題、業務上の政策要望に特化してきた。司法書士制度推進議員連盟

の先生方とともに法改正・制度改革を実現してきた。そのための国会議員との信義、信頼に応えるのが選挙支援であり、これに携わることも一点の理由で日司政連が政治団体となっている。」として今次は、組織強化の絶好の機会であると力説した。

以上議事を終了し議長団は降壇した。

***尚、第40回定時大会要項（冊子）は4月上旬に各単位政連宛て発送してありますので是非ご覧ください。**

続いて会長顕彰がおこなわれた。

1. 表彰

[日司政連顕彰規則第3条第2号による表彰]

→単位司政連会長として通算6年以上職務に従事した者

長友 克吉（ながとも かつよし）日本司法書士政治連盟宮崎会 会長

伊藤 征方（いとう ゆきのり）日本司法書士政治連盟福岡会 会長



2. 感謝

[日司政連顕彰規則第4条第2号による感謝]

→単位司政連の推薦に基づき特に感謝することが相当である者

菅原 哲彌 (すがわら てつや)	日本司法書士政治連盟宮城会	副会長
山内 隆一 (やまうち りゅういち)	日本司法書士政治連盟愛知会	副会長
川端 辰長 (かわばた たつなが)	日本司法書士政治連盟長崎会	会長
斎藤 英介 (さいとう えいすけ)	日本司法書士政治連盟長崎会	副会長
納富 明 (のうとみ あきら)	日本司法書士政治連盟福岡会	副会長
深掘 幸三 (ふかほり こうぞう)	日本司法書士政治連盟福岡会	幹事長
宗 秀利 (そう ひでとし)	日本司法書士政治連盟福岡会	副幹事長
吉野 浩通 (よしの ひろみち)	日本司法書士政治連盟福岡会	副幹事長

安井副会長の閉会の辞、渡部秀一相談役による万歳三唱をもって終了した。



閉会后、グランドプリンスホテル赤坂 別館5階「ロイヤルホール」の懇親会場に移動した。

懇親会場において祝辞をいただいた議連所属の先生方

中井 洽 衆議院議員 議連副会長 国家公安委員会委員長
拉致問題担当

仙谷 由人 衆議院議員 議連副会長 内閣府特命担当大臣
公務員制度改革担当
国家戦略担当

菅原 一秀 衆議院議員

久世 公亮 前議連幹事長（元参議院議委員）

そのほか、代理として秘書方々多く出席された。

以上